

平成17年度 学校評価シート (埼玉県立上尾橋高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、社会に貢献できる人材を育成する
本年度の 重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、規律意識を高める。 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。 3 進路指導の充実により生徒の自己実現を図る。 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。

番号	評価項目	年 度 当 初			最 終 評 価 (2月)		
		現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題と改善策
1	基本的な生活習慣の確立 ○正しい身だしなみの確立 ○時間を守らせる ○心豊かな生徒づくり ○教育相談の充実 ○部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が身につけていない生徒が多い。そのため、身だしなみや遅刻、欠席等にルーズな面が多く見られ、改善の必要がある。 挨拶や清掃活動の励行により、心豊かな生徒づくりが図られているが、言葉遣いや振る舞いに適切さを欠く者がいる。 人間関係づくりの不得手な生徒がいる。 生徒の部活加入率が低く、部活動が停滞している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が遅刻・身だしなみについて声かけを行う。 出欠状況表を活用し、遅刻防止への意識を高める。 保護者との連携を密にし、指導への協力体制を強める。 環境整備委員を活用し、清掃点検を行う。 教員から声かけをし、学校内での居場所づくりを図る。 顧問が1日1回、練習場所へ指導に行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導対象者を前年度より20%減らす。 身だしなみや頭髪違反者を0にする。 清掃点検表を全て○にする。 生徒全員が挨拶できる。 前年度より部活動への参加者が増えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻防止期間中に、遅刻防止の声かけや、遅刻指導対象者への奉仕活動の導入により、指導対象者数を前年度より20%減少させた。一方、遅刻指導期間外の遅刻の減少は大きく改善できなかった。 授業態度(身だしなみ)育成週間を設定し、生徒の授業態度や身だしなみの改善を進め、一定の成果をあげた。しかしながら、身だしなみ違反者0の数値目標は達成できなかった。 日頃より挨拶の励行を進めた結果、60%の生徒が進んで挨拶をしたが、生徒全員の挨拶は達成できなかった。また、環境整備委員を活用し環境美化に努めたが、清掃点検表をすべて○にはできなかった。 部活動加入者数は前年度より増加しなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じた遅刻者・身だしなみ違反者数の減少を図る。そのため、保護者との連携を密にし、計画的な指導を実施する。さらに、集会や学校通信を活用し、常日頃より、基本的な生活習慣確立の意識を高める。 上級学年になるにつれて、挨拶の励行や清掃活動に進んで取り組む生徒の育成を目指す。そのため、職員からの積極的な挨拶や清掃活動を進める。 部活動の加入率を上げ、活性化を図るための具体策を検討する。
2	授業改善の取り組み ○一人ひとりを大切にする授業 ○評価・指導方法の工夫 ○学習態勢の確立	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校より学習面で多くのつまずきを抱え、基礎学力が不足している生徒が多く、理解度にかんがいの差がある。 少人数学級編制や授業展開上の工夫(少人数、チーム・ティーチング等)に取り組んでいる。学習態勢が不十分である。 学力や学習意欲が不足しているため、中途退学する生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本的な学習事項を繰り返し学習させ、基礎学力の定着を図る。 少人数学級編制を活用する。 教育課程の効果的な実施のため、少人数等、授業展開上の工夫を行う。 評価や授業改善についての研修会を実施する。 チャイム着席指導を徹底し、授業に集中させ基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、2割以上の成績優良者を確保する。 80%の生徒が、中学時より学習の理解度が高まったと感じられるようにする。 授業に対する満足度を前年度より向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学習に重点を置き指導している。1、2年生を中心に課題テストも実施。1学年の「総合学習の時間」では基礎学習に取り組ませた。 成績優良者は昨年同様、学校全体で10%程度であった。上級学年になるにつれて目的意識を持って学習する雰囲気も出てきている。成績不振者は依然多く、一層の指導や対策が必要である。 70%の生徒が中学時より学習の理解度が高まったと感じているが、半数の生徒は授業を「普通」と受け止めており、「満足」までには至っていない。 少人数授業・チーム・ティーチング等の実施により指導方法の工夫に努め、生徒の学習理解度の向上に一定の成果をあげた。 生徒指導部と連携し、授業態度育成に努め、チャイム着席の徹底や学習態勢の向上を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科はもとより、総合学習、特編授業でも基礎学力向上に向けての取組をさらに進める。 成績不振者指導については、家庭との連携を密にし、協力を得て、欠点者を減少させる。 生徒の基礎学力の向上と進路実現につながる教育課程の実施のため、今後の改善について検討する。 成績評価基準についての共通理解を図り、改善を図る。それにより、生徒の学習意欲を引き出し、授業改善につなげる。 授業態度の育成、チャイム着席については今後も継続的に、全教職員が意識を持って早期に対応し、粘り強く指導していく。

3	夢を実現させる進路指導 ○進路決定率の向上 ○進路相談・個別指導の充実 ○資格取得を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導に沿って活動した生徒は100%が決定をするが、学校の指導に乗らない生徒もいる。 家庭の事情等で希望の進路に進めない生徒がいる。 個別指導の時間確保や様々な情報の共有化が困難な状況にある。 資格取得に対する意欲（自信）がやや不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路補習を計画的に行い、進路希望を実現できる学力を養う。 分野別説明会等、生徒の進路希望にきめ細かく応じる進路行事を計画実施する。 就職支援アドバイザーを活用し、面接指導を充実させる。 進路未決定者の個別指導を充実する。 資格取得のための補習や指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 100%の進路決定率を維持する。 進路希望実現者の増加。 資格取得者の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年と進路指導部の連携の元で粘り強い指導を行い、生徒も諦めず最期まで頑張った。その結果、ほぼ100%の進路決定率を維持できた。一方、1、2年生の進路意識は50%程度と低く、高める必要がある。 3学年は、就職希望者全員に補習用テキストを購入、分野別説明会の工夫、進路決定者に対する事後指導等の新たな試みを実施できた。また、2学年はインターンシップ事業に積極的に参加し、1学年は、総合学習の時間に進路学習、資格取得に向けた授業、補習を行った。 3年生の県知事表彰者は22名となり、前年度に比べ取得率が向上した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望者に対する面接指導の一層の充実を図り、決定率100%を目指す。また、社会人としての一般常識や知識を確実に身に付けさせるため、MOF学習や特編授業で補充授業を実施する。 生徒一人ひとりが自分自身の将来について真剣に考える機会を多く持たせる。また、進路に関する様々な情報の提供に一層努め、生徒の進路意識を向上させる。
4	開かれた学校づくりの推進 ○地域との連携 ○学校評価懇話会の活用 ○授業公開 ○学校施設の開放	<ul style="list-style-type: none"> P T Aとの校外生徒指導が図られている。また、近隣中学校と生徒情報交換を実施しているが、生徒募集面での十分な効果につながっていない。 学校評議員兼教育懇談会を実施している。 年2回の授業公開にもかかわらず、保護者の参加が少ない。 施設利用希望者に対し開放している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校教員への授業公開を行う。 進路講演会の保護者・地域への開放を行う。 生徒の意見を積極的に取り入れる。 学校通信、HP等を活用し、保護者や地域に積極的に働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会への参加者数を増やす。 講演会への参加者数を増やす。 学校への生徒の意見の数。 授業公開への参加者数を前年度より増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報「橘」は、写真を増やし、見やすく分かり易いものにした。また、校長の方針や学校の様子を伝える「橘高だより」を新規に毎月発行した。 年2回の公開授業、進路行事に保護者の参加を積極的に呼びかけたが、参加者は前年度に比べ微増であった。 年4回の中学校訪問及び学校説明会を実施した結果、学校説明会参加者は前年度比1.5倍となった。また、中学校教員対象の授業公開を初めて実施し、中学校教員が参観し、情報交換ができた。 交通安全指導や文化祭等の各種行事にP T A後援会の協力を得て実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開の期間や設定の仕方（他の行事との組み合わせ、中学校との連携等）を検討し、実施する。 P T A役員がより積極的に活動し、また、一般会員も幅広く参加できるように、P T A諸行事の運営方法を工夫する。 地域・保護者の信頼をより一層高めるため、生徒、保護者アンケート結果を分析し、教育活動の工夫改善を行う。 ホームページ、広報紙を一層充実させる。

達成度 A：十分達成 (100%) B：概ね達成 (80%程度) C：変化の兆し (50%前後) D：まだ不十分 (30%前後) E：目標、方策の見直し (20%以下)

